

キウイフルーツ ‘ヘイワード’ における耐水性台木「Bounty」の検討

1. はじめに

キウイフルーツは、土壌が加湿になると根腐れを起こしやすく、近年の集中豪雨の多発により、根が衰弱し、枯死することが問題となっている。更に梅雨明け後の高温乾燥により、衰弱した根では吸水が間に合わず、葉の萎凋や葉焼けが生じ、著しい場合は落葉し、枯死するため、水田転換園などの排水不良園では深刻な問題となっている。そこで、キウイフルーツの近縁種で耐水性が強い *Actinidia macrosperma* の「Bounty」を ‘ヘイワード’ の台木としての利用を検討している。

2. 水田転換園での ‘ヘイワード’ の初期生育

2018 年に西日本豪雨とその後の乾燥により、定植 3 年目の ‘ヘイワード’ が枯死した松山市内の水田転換園で、2021 年 3 月に Bounty 台、シマサルナシ交雑実生台、共台の ‘ヘイワード’ を定植した。梅雨末期の連続降雨等により、シマサルナシ交雑実生台や共台は枯死が発生したが、Bounty 台は健全に生育し、‘ヘイワード’ の耐水性台木として有効であると考えられた。

表 1 定植 1 年目の状況 (2021 年 12 月)

台木の種類	主枝長 (cm)	枯死率 (%)
Bounty 台	189	0
シマサルナシ交雑実生台	146	81.8
共台	129	60.0

3. Bounty 台 ‘ヘイワード’ の問題点

センター内 (花崗岩母材, 中粗粒褐色森林土) においても 2019 年に各台木を定植し、2020 年に ‘ヘイワード’ を接木し、栽培試験を進めており、果実品質については他の台木と同等であることを確認している。

表 2 追熟果の果実品質 (2025 年産)

台木の種類	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	酸含量 (g/100ml)
Bounty 台	123.0	14.4	0.30
シマサルナシ交雑実生台	116.0	14.8	0.30
共台	114.0	14.6	0.51

問題点として、①挿木苗から発生する枝が細く穂品種を接木するまでに時間を要すること、②細い穂木を利用するため初期生育、初期収量が劣ること、③病原細菌に感染すると花蕾が褐変して受粉不良となる花腐細菌病の発生が多いことが判明した。接木方法や時期の検討、苗の生育促進、花腐細菌病対策を検討している。

4. 花腐細菌病対策

Bounty 台の花腐細菌病の耕種的防除として、ビニルの被覆、環状剥皮について検討した。ビニル被覆試験は 2023 年、2024 年に実施し、開花 1 か月程度前から受粉直後まで被覆した。環状剥皮試験は 2025 年、2026 年に実施し、開花 20 日程度前に主幹に 1cm 幅で実施した。樹齢が進み、樹勢が落ち着くことで花腐細菌病の発生が少なくなる傾向であったが、対策を講じることで花腐細菌病の発生を抑えることができた。

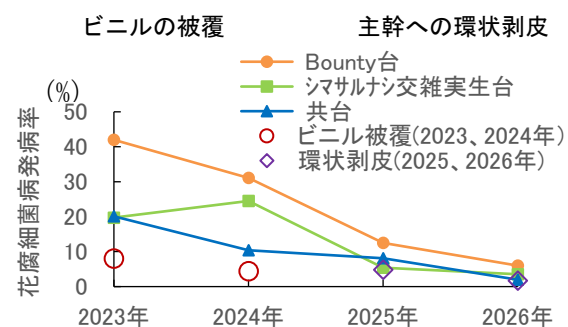


図 花腐細菌病発病率の推移

5. まとめ

「Bounty」は、水田転換園など湿害により他の台木では健全に育たない場合に有効であると考えている。水田転換園での生育調査も実施しており、耐水性台木としての利用を引き続き検討していく。

(栽培開発室 主任研究員 岡田 雅道)